

令和 6 年度 会派調査研究報告書

(視察先 1 箇所につき 1 枚)

会 派 名	壮志会
事 業 名	畜産環境対策について
事 業 区 分	① 研究研修 ②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

当時、市内に点在された 9 業者が経営していた豚舎を、農業振興地域に指定されている地に国の指導によって市が率先して移築したが、40 年前より豚舎の近くが住宅街となったため臭気問題が発生し、地域住民が生活環境の悪化により悩まされている。行政も解決に至らないことに悩まされている。そこで、鹿児島県鹿屋市は全国でも表彰を受けるほど、畜産業を基幹産業として取り組んでいる。鹿屋市の畜産業を参考に課題の解決に資する。

2 実施概要

実施日時	視察先	鹿児島県鹿屋市
令和 6 年 11 月 13 日 (水) 14 時 00 分～16 時 00 分	担当部局	鹿屋市 農林商工部 畜産課 大六野洋参与兼課長、有馬国昭課長補佐 串田忠輝係長、小平雅貴氏

報 告 内 容	1 鹿屋市の概要 鹿屋市は本土最南端へと伸びる大隅半島のほぼ中央に位置し、人口は約 10 万人で古くから大隅地域の交通・産業・経済・文化の拠点として役割を担っており、市の北部には日本の自然百選にも選ばれている壮大な高隈山系が連なり、西部は、鹿児島湾(錦江湾)に面して美しい海岸線が見られ、南部は、神代三山陵の 1 つである吾平山上陵を有する山林地帯となっております。平均気温 17.6℃、年間降水量 2,685mm と 1 年を通じて温暖な気候や豊かな自然環境に恵まれ、第 1 次産業を基幹産業として全国でも有数の食料供給基地を形成するとともに、日本最大級の『かのやばら園』や国立大学法人鹿屋体育大学などの施設も集積しています。 2 鹿屋市畜産業の概要 鹿屋市は県内有数の畜産地帯で、温暖な気候と豊かな自然を生かしながら発展してきており、肉用牛・乳用牛・養豚においては県内で 1 位の飼養頭数を誇っており、令和 4 年度農業産出額 460.1 億円のうち、72%を超える約 329 億円が畜産によって算出されているなど、本市の畜産は全国に誇る基幹産業であります。
------------------	---

3 取組み

(1) パトロール巡視及び農家指導

- 畜産環境パトロール員（2名）等による毎週5日間の巡回パトロールを行った。市内を巡回パトロールし、排水路や家畜排せつ物処理施設の処理状況の確認を行うとともに、適正処理についての指導を行った。
- 苦情多発ポイントを中心に、夜間パトロールを実施し、家畜排せつ物の処理状況と臭気状況を確認した。（45回実施）

(2) 生活環境課との合同パトロールの実施

畜産環境パトロールを合同で実施し、苦情多発ポイントを中心に、家畜排せつ物の処理状況と、畜産臭気の状態を確認し、パトロールの強化を図った。（6回実施）

(3) EM菌の無償配布（市独自培養）

EM菌培養装置（5台）により、EM菌を独自培養し、苦情の多い地区の農家を中心に配布している。○ EM菌培養液配布量 年間 21,960ℓ（培養回数 24回）

○ 配布農家数

（単位：戸）

豚	肉用牛	乳用牛	鶏	合計
42	17	10	1	70



EM菌培養装置

(4) ふん尿処理施設整備農家の放流水水質検査の実施（養豚農家）

養豚農家が保有するふん尿自己処理施設の水質検査を実施することで、施設の適正な稼働の促進と畜産経営体の環境意識の向上を図った。

《養豚ふん尿自己処理施設：57農家 62施設》

地区名	農家数	施設数	採水日
輝北	4	4	R5. 12. 21
串良	23	26	R5. 12. 19～R5. 12. 21
鹿屋	23	24	R5. 10. 17～R5. 10. 18
吾平	7	8	R5. 11. 8
計	57	62	

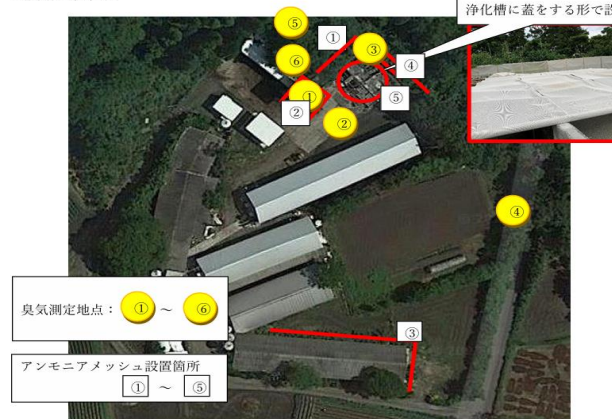
(5) 消臭資材の実証実験

- 実証目的 実証農家においては、北東側に住宅があり、風向き等により苦情が頻繁に寄せられる立地にあることから、縦型コンポスト周辺、浄化施設周辺にアンモニアメッシュを設置し、さらに新たに、消臭資材「バイオフィーター」の投入を行い、敷地境界では「デオマジック」を散布し、周辺地域に及ぼす臭気の影響を調査したもの。

○デオマジック散布状況



○農場内位置図



○アンモニアメッシュ設置状況



(5) 消臭資材の実証実験

○ 実証目的 実証農家においては、北東側に住宅があり、風向き等により苦情が頻繁に寄せられる立地にあることから、縦型コンポスト周辺、浄化施設周辺にアンモニアメッシュを設置し、さらに新たに、消臭資材「バイオフィーター」の投入を行い、敷地境界では「デオマジック」を散布し、周辺地域に及ぼす臭気の影響を調査したもの。

6 畜産の臭気対策の取り組みについて

(1) 臭気対策の現状及び課題

○現状

- ・市が独自に培養している「EM菌」の農家への無償配布
※臭気苦情発生エリアの農家を中心に配布
- ・その他の消臭資材の提供 ※主に、継続的に苦情が発生している農家への提供
- ・農家意識改革（ノーリスクハイリターン）

○課題

- ・畜舎や農地の近くまで宅地化が進んでいること
- ・畜産経営の規模拡大に伴い、家畜排せつ物量が増大していること
- ・飼料畑にスラリー（酪農・養豚）が農地還元されていること
- ・堆肥の野積みや、未熟堆肥が農地還元されていること（耕種農家含む）
- ・散布後、速やかな耕耘を指導しているが、徹底されていない（耕種農家含む）
※収穫後のスラリー追肥は、耕耘出来ないのでは、対策は困難

(2) 畜産農家への臭気対策に係る補助金の推移

年度	事業名	事業内容	事業費	補助金
H26	畜産臭気緊急特別対策事業	臭気対策用細霧設備整備に要する経費補助	2,968,077 円	1,349,000 円
H30	畜産クラスター事業（リース）	オゾン脱臭装置整備補助	61,870,284 円	28,643,650 円
R2	畜産クラスター事業（ハード）	ウインドレス鶏舎整備	816,926,000 円	348,652,000 円
		浄化施設整備（膜処理及び高分子凝集分離処理機器）	50,600,000 円	23,000,000 円
R5	畜産クラスター事業（ハード）	ウインドレス鶏舎整備	324,500,000 円	143,480,000 円

【平成26年度の補助実績内訳】

農場	所在地	経営形態	飼養頭数（頭）	事業費（円）	補助率	補助額（円）	豚舎数	備考
A農場	上祓川町	一貫	1,700	207,381	1/2	103,000	1	
B農場	上祓川町	肥育	1,400	2,268,000	1/2	1,000,000	3	限度額
C農場	東原町	肥育	2,000	492,696	1/2	246,000	1	
計				2,968,077		1,349,000	5	

※飼養頭数については、平成26年度の数値

※平成27年度以降・・・EM菌の無償配布を行っている。

(3) 臭気資材の家畜への影響

これまでの実証を踏まえ、家畜への影響がないものによる検証を行っているため、影響については特にない。

※EM菌については、乳酸菌・酵母菌・光合成細菌群といった微生物を天然材料で複合培養したもので、これらの種々の微生物の働きが有機物の処理、環境中の微生物の活性化を行い、畜産環境、飼育管理等に好影響を与えるものです。

(4) 年度別苦情件数

年度	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
苦情件数	50	51	45	66	76	79	37
臭気件数	24	25	27	21	44	38	16
臭気割合	48.0%	49.0%	60.0%	31.8%	57.9%	48.1%	43.2%

※R6年度については、令和6年10月21日現在

※継続相談については、令和4年度から続いている案件が1件あり、苦情主や対象農家の双方の意見を聞き取り、継続して臭気対策を実施している。

(5) 臭気問題の解決について

- ・苦情内容を確認し、畜舎からの臭気なのか、農地還元によるものかを判断し、農地還元については、環境パトロール員等により、現地確認後、早めの耕耘等をお願いしている。
- ・畜舎からの臭気問題についても、相談があった際、現地確認を行い、臭気の発生元に対して、消臭資材による対策を行っている。相談内容によっては、2年以上費やしている案件もある。（臭いは「0」にできないことからそれぞれの妥協点が大事であると考え。）

(6) 環境問題に対する指導内容

- ・養豚農家の自己浄化施設から排出される処理水の水質検査及び日々の確認
- ・畑に散布された堆肥の「早めの耕耘」の依頼（耕種農家含む）
- ・畜舎内の毎日の清掃の徹底
- ・農家意識改革（パンフレットの配布・環境講習会の実施）

(7) 臭気が広範囲化となる原因

- ・本市においては、地形的な影響も大きく、台地上に畜産団地（畑含む）が形成されて、その南側に市街地が広がっており、さらには、その市街地が盆地になっていることから、日中、空気中へ拡散された臭気が、夕方、空気が冷やされることにより市街地付近へ降りてきて、溜まりやすい状況であると推察される。
- ・畜産団地で発生した臭気が、周辺の河川に乗って市街地まで届いてきている可能性 がある。

(8) 鹿屋市畜産環境センターのこれまでの取り組みと今後の課題

- ①設置目的 鹿屋市においては、家畜排せつ物の処理対応の遅れにより畜産に起因する環境汚染が社会問題となり、このままでは畜産経営の存続が困難になる事態が予想された。

このため、平成13年4月に素掘等の解消による地域の快適な生活環境の創設と畜産経営の健全な維持発展を図ることを目的として、1日当たり200t処理規模の広域処理センターを開設した。

まとめ

- ・飼養戸数は年々減少が続いており、更に飼料や資材価格の高騰等による経営の圧迫が懸念され、担い手や後継者の問題がある。担い手確保に向け、少しでも農家の負担を軽減するための取組が必要である。
 - ・鹿屋市の畜産農家の問題についても、畜舎や農地の近くまで宅地化が進んでいること、畜産経営の規模拡大に伴い、家畜排せつ物量が増大していることとされており、行政が農家と地域住民の間に入り問題解決に取り組んでいる。
 - ・鹿屋市は臭気を緩和できる「EM菌」を独自に培養し農家への無償配布を行うことや、水質検査も市が中心に行いしっかりと、定期的に場所を決めて行うなど行政が主体となっている。
- 視察を願みて今後は行政が間に入り、解決に向かうことが大切と考える。

